

## 2022 Bionic Jack Racing FIA-F4 選手権レースレポート

【FIA-F4 選手権シリーズ第7戦・第8戦】



鈴鹿サーキット（三重県：5.807km）

8月27日（土）予選、決勝レース1：曇り／ドライ 入場者数：9,000人

8月29日（日）決勝レース2：曇り／ドライ 入場者数：16,500人



#97 岩澤 優吾 BJ Racing F110

#81 卜部 和久 BJ Racing F110

卜部は予選よりまたも順位を上げて2戦連続で入賞果たすも、岩澤は第8戦で無念のリタイア。連続入賞もストップ……

7大会・14戦で競われ、激戦で知られるFIA-F4選手権シリーズに、高木真一監督が指揮を執る、Bionic Jack Racingは今回から2台体制とし、継続参戦の岩澤優吾、そして新加入の卜部和久を走らせる。岩澤はチーム加入2年目とあって、着実に成果を残している。前大会の富士では4位、3位に入り、開幕からの連続入賞を更新中。ランキングは3位のままだが、4位以下を引き離してもおり、すでに2回も表彰台に上がったからには、もはや狙うは優勝しかない。

一方、卜部はルーキーならではの壁にぶち当たっている。練習では実力の片鱗を見せるも、本番で本領発揮ならず。特に前大会は予選がキャンセルされたため、決勝を中団からスタートせざるを得ず。それでも2レースとも順位を落とすことなくゴールしており、特にレース2では見出せたこともあったよう。正解かどうかは、今大会で明らかになるはずだ。

## ◆予選

#97 岩澤 優吾 BJ Racing F110 : 8 番手・10 番手

#81 卜部 和久 BJ Racing F110 : 12 番手・12 番手

前大会の富士スピードウェイに続き、第4大会の鈴鹿サーキットも FIA-F4 は今季2回目の開催となる。岩澤はもちろんのこと、卜部も併せて出場しているスーパーFJ、そして受講していた HRS 鈴鹿 Formula で走り込んでいるコースとあって、走行経験は豊富。より一層の活躍が期待された。専有走行は木曜日から開始され、2組に分けられた最初のセッション1は、卜部がトップのコンマ4秒遅れとなる2分10秒808をマークして上々のスタートを切るも、持ち込みのセットが合わなかったという岩澤は2分11秒244に留まっていた。続いて行われたセッションは、序盤こそドライコンディションが保たれたものの、途中から雨に見舞われたこともあって、ふたりともタイムを伸ばすことはできなかった。金曜日になると、改めたセットがはまった岩澤は最初のセッションで2分9秒841をマーク。温度の上昇もあって、次のセッションでは2分10秒846に留まるも、終了間際に記して8番手につけ、まさに状態を右肩上がりとしていた。一方、卜部は最初のセッションで9秒台にあと一步となる2分10秒018を記録し、次のセッションでは2分10秒905で11番手だった。そして土曜日の早朝に行われた予選は、岩澤、卜部ともにA組での走行。それぞれ計測2周目からアタックを開始する。計測3周目にベストタイムとなる2分9秒531をマークした岩澤は、いったんクールダウンを挟んで、ラスト2週の計測でセカンドベストとなる2分9秒624を出し、それぞれ4番手、5番手につけることに。卜部もまた計測3周目に2分10秒046を記録すると、しばらくは伸び悩むも、ラストアタックで2分9秒989にまで短縮を果たし、これをベストタイムに。その結果、セカンドベストタイムともに6番手につけていた。なお、トップのタイムはB組の方が上回ったため、A組のドライバーはイン側グリッドに並ぶこととなる。

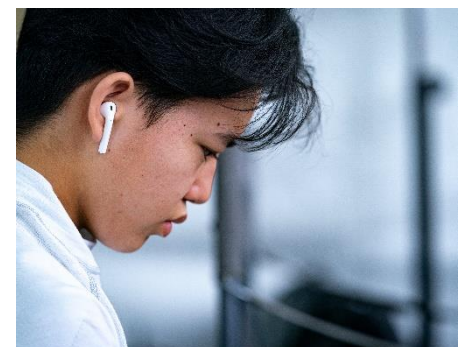
### 岩澤優吾

「昨日よりはセットアップも進んだと思うのですが、路面が良くなってきているので、そこに合わせ込むのが完璧ではなかった感じです。もうちょっと行けましたね。決勝では必ずスタートでポジションを上げてみせます！ レースペースはトップの3人ぐらいは速いと思いますが、その後ろはみんな変わらない感じなので、最初の混戦の時にちゃんと順位を上げて、表彰台に上られるチャンスを作れるように頑張りたいですね」



### 卜部和久

「昨日まで結果は良くなかったですが、内容は悪くありません。今はリヤにトラブルが出てスタビが外れていて、ちゃんとネジが締まっていなかったようで。最初からずっと曲がりませんでした。あんまり流れが良くない感じではありましたが、伸び代はあると思っています。決勝では必ず上がっていきます」



#### ◆決勝レース第7戦

#97 岩澤 優吾 BJ Racing F110：9位

#81 卜部 和久 BJ Racing F110：8位

土曜日の13時45分から、レース1のスタート進行は開始。11周もしくは30分の戦いとなる。今大会は38台がエントリーし、岩澤は8番手、そして卜部は12番手のグリッドに並んだ。スタートを決めると強く誓っていた岩澤が、ポジションキープに留まっていたのに対し、卜部はひとつ上げる。そしてヘアピンでは、2台が接触して止まるアクシデントが発生。即座にセーフティカーが導入される。

先導は3周目まで続き、リスタート後に岩澤は1台に抜かれてしまうも、逆に卜部はひとつ順位を上げて、2台は連なって走るように。そして6周目のストレートから1コーナーにかけて、1台を間に挟んでスリーワイドでふたりは飛び込んでいき、イン側にいた卜部が8番手に浮上。岩澤が続いてS字で1台を抜いて、卜部の背後につけることとなる。その直後には130Rで、またしてもアクシデントが発生し、二度目のセーフティカーランが実施される。前後の間隔は詰まったままとあって、9周目のリスタート後に卜部、岩澤のさらなるポジションアップが期待されたが、前を行く車両にミスはなく……。後続からのプレッシャーは受けずに済むも、逆転の機会は与えられなかったものの、卜部が8位、岩澤が9位と、今季2回目のふたり揃ってのポイント獲得を果たしていた。

#### 岩澤優吾

「バランスが悪かったので、ペースが足りなくて、難しかったですね。ちょっと厳しい感じでした……」



#### 卜部和久

「1コーナーで、うまく抜けました、本当に。スタートは普通だったんですが、前でミスった車が1台いて、それで1台すぐに抜けました。車のバランスはすごく良くなっていて、何台か抜くことができ良かったです。明日のレースも頑張ります！」



## ◆決勝レース第8戦

#97 岩澤 優吾 BJ Racing F110：リタイア

#81 卜部 和久 BJ Racing F110：10位

日曜日の早朝に行われるレース2も、11周もしくは30分での戦いに。ここでは岩澤は10番手から、そして卜部は12番手からスタートを切ることとなった。ダッシュ良く、岩澤は1コーナーまでにひとつ順位を上げたのに対し、卜部は出遅れて13番手で1コーナーを通過する。オープニングラップのうちに卜部は順位を戻し、続く2周目の1コーナーに4台が集団に飛び込んでいくシーンにおいて、岩澤は7番手に浮上する。3周目に差し掛かるタイミングの前後に、アクシデントがいたるところで発生する。130R、シケイン、2コーナー、そしてS字で。ストップした車両の中には、なんと岩澤も！ 1コーナーで抜いた直後の車両に追突されて、グラベルにはまってしまったのだ。これで岩澤の第1戦からの連続入賞記録は止まった。一方、ひとつ順位を上げた卜部は、5周目まで続いたセーフティカーランの後、さらなる追い上げが期待されるが、背後に着けた相手もミスをせず。こう着状態は最後まで続き、卜部は11位でゴール。しかし、先にゴールしたドライバーにペナルティが課せられ、降格したことによって、ひとつ順位を繰り上げて10位を獲得。卜部が初めての連続入賞を果たした。

第5大会はやはり3週間後の、9月17~18日にスポーツランド SUGO で開催を予定。残るはあと3大会、悔いを残さないことが期待される。

### 岩澤優吾

「1コーナーで抜いたんですが、その後の2コーナーに向けてインに入ろうとしたのか分かりませんが、リヤを押されてそのままグラベルに入ってしまった。何か予感はしていて、相手がルーキーなので1コーナーはインを開けていたから、ぶつからずに行けたんですけど、2コーナーに向けてが……。そもそも、今週はずっと流れが悪くて、どんな形であっても自分のミスはゼロで、自分がぶれないようなメンタルを持っていなければいけないと、すごく感じました。残りのレースは自分のミスはゼロで走れるようにして、取り返せるようにしたいです」



### 卜部和久

「スタートでミスしてしまったのが、大きかったですね。ろが、ちょうど合わなくて、オーバーテイクできずに終わり、ちょっとつらいレースになってしまいました。一番の反省点は、予選で前に行けなかったことです。これで、ずっとしんどくなってしまいました」

